News Release
花王株式会社

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10　www.kao.com/jp/

＜発表資料＞　2026 年 8 月 17 日　26044

経営判断を支えるデジタル活用の推進
花王、需要計画立案を支援する AI エージェントを開発
～需給計画高度化で適正在庫の実現と機会損失の削減に貢献～

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）は、自社開発の需要予測モデルによる予測値に、販促計画などの施策情報を反映し、需要計画立案を支援する AI エージェント「Kao-MIKOMIL（みこみる）」を開発しました。まずは化粧品ブランド「KATE」を対象に、2026 年 7 月より導入を始め、他の化粧品ブランドにも順次導入していきます。

これまで需要計画は、デジタル戦略部門のデータサイエンティストと、事業部門の担当者が、類似商品の販売実績や販促施策などを読み解きながら検討していました。「Kao-MIKOMIL」導入により、AI エージェントが需要計画案とその根拠を提示し、事業部門の担当者が最終的に判断することで、需要計画を迅速に立案できる体制を整えました。

商品構成の見直しや在庫運営の効率化に加え、事業、生産、物流、販売をデータでつなぎ、需給計画を精緻化する取り組みにより、化粧品事業の製品在庫を、2027 年までに約 25%削減※することをめざします。今回の AI エージェント導入により、在庫適正化と機会損失の極小化をさらに加速していきます。※2024 年比

背景

花王は、自社で保有するデータを重要な経営資産と位置づけ、戦略的 S&OP（Sales & Operations Planning）を推進しています。事業、生産、物流、販売の各領域のデータを連携するとともに、需給計画を標準化する統合プラットフォームをグローバルで導入しています。さらに、商品情報や需給データを全社データ活用基盤の「Kao i-Lake」に統合・蓄積・管理し、長期にわたり活用しています。

これにより、一部の限定品を除くすべての商品について、約 18 か月先までの月次予測と、約 6 か月先までの日次予測に基づき生産計画を立案し、必要な商品を必要な量だけ生産・供給する仕組みを構築しています。こうした取り組みの実現の背景には、花王が調達から販売までサプライチェーン全体を一貫して担い、各工程のデータを横断的に活用できる強みがあります。

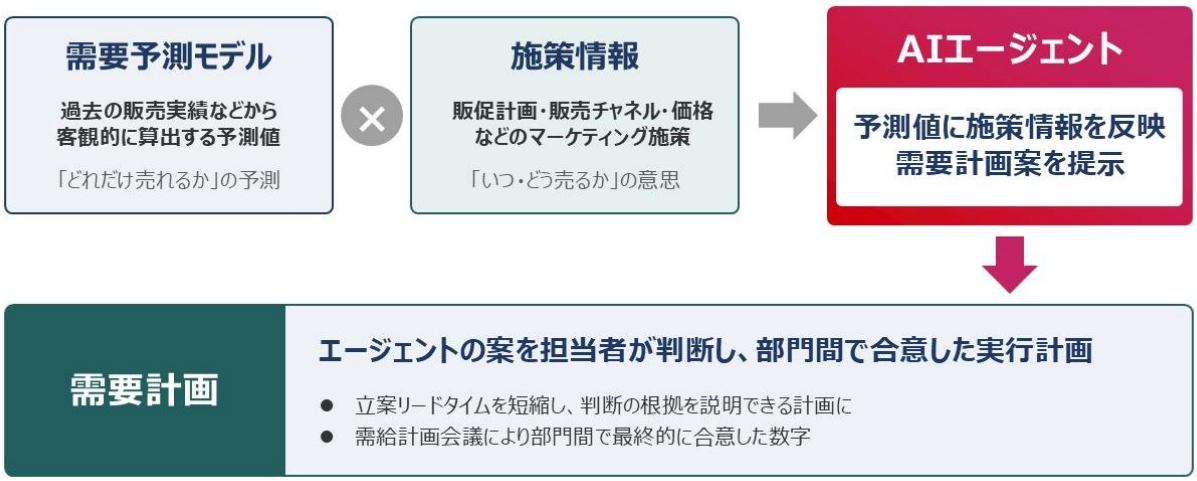
概要

今回開発した AI エージェント「Kao-MIKOMIL」は、AI を活用した需要予測モデルを軸に、需要計画立案を支援します。需要予測モデルが過去の販売実績などから客観的な予測値を算出し、AI エージェントが販促計画・販売チャネル（販路）・価格などの施策情報を反映して、需要計画案と根拠を提示します。従来は、類似商品の販売実績や担当者の経験をもとに、発売時期や販促内容などを考慮しながら、データサイエンティストと事業部門の担当者が連携して需要計画案を検討していました。

AI エージェントの活用により、既存品・新商品を問わず、事業部門の担当者が提示された需要計画案と根拠を確認し、部門間の調整を経て実行計画を決定します。これにより、立案リードタイムの短縮、判断根拠の明確化、業務プロセスの効率化を図ります。さらに、活用を重ねることで需要計画の知見が蓄積され、計画精度のさらなる向上も期待できます。

AI エージェント開発にあたっては、データサイエンティストが事業部門に常駐し、需要計画立案における現場課題や運用実態を把握したうえで、中長期で活用できる仕組みを設計しました。まずは「KATE」での運用を通じて計画精度や業務効果を検証し、他ブランドにも順次導入していきます。

花王の需要計画立案の流れ



今後の展望

花王は今後も、AI を含むデジタル技術を積極的に活用し、意思決定の質とスピードの向上を図ります。需給計画の高度化により在庫の適正化を進め、機会損失を削減することで、サプライチェーン全体の効率化と ROIC の向上につなげていきます。

関連情報

2026 年 4 月 13 日　ニュースリリース　花王、「DX 銘柄 2026」に選定

2026 年 7 月 27 日　ニュースリリース　「花王 AI ガバナンス方針」を策定